

インターバンクの声（2015年1月15日）

先週末の米雇用統計が時間当たりの平均賃金低下を示したことから、今年半ばと想定されていた米連邦制度理事会（FRB）の利上げ時期が後ずれするとの見方に傾き始めている。そのため東京市場が祝日休場となった週明けの12日以降は、ドル円の下落が目立つようになってきている。それでもその日のニューヨーク市場では、118円台の前半から119円台に一気に値を戻すような展開もあり、ドルの底堅さを改めて感じることもあったが、やはりその後もドルの上値が重く、昨夜の12月米小売上高の予想外の落ち込みによって12月17日以来となる116円台まで値を下げた。しかも値下がりのスピードは速く115円台突入も覚悟したディーラーも多かったようだ。詳しい情報が得られ難くなっている御時世なので、ニューヨークにいる友人も細かい説明はしてくれなかったが、オプションのポジション調整に絡むドルの買戻しがあったことも116円を守る一要因にはなったようだ。117円台をさらに上げれば別だが、まだドル売りの圧力が強く残っていると思ったほうがいいかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。